



# ホウオウルーレット *Ho O Roulette*

牡 鹿毛 2019.5.19生  
 北海道新ひだか町 岡田スタッド生産  
 馬主・小笹芳央氏 美浦・栗田徹蔵舎  
 馬名意味・冠名+カジノゲームの一種

セリングビューティFR系 F14-c

ロージズインメイ Roses in May 青鹿毛 2000	Devil His Due 黒鹿毛 1989	Devil's Bag Plenty O'Toole
	Tell a Secret 黒鹿毛 1977	Speak John Secret Retreat
オメガフレグランス 鹿毛 2007	ゴールドアリュール 栗毛 1999	サンデーサイレンスUSA ニキヤUSA
	ビューティメイク 鹿毛 1989	リアルシヤダイUSA セリングビューティFR

5代までのインブリード: Halo S4×M4 Hail to Reason S5×M5×M5  
Northern Dancer M5×M5

## INTERVIEW

岡田牧雄代表(岡田スタッド)

### 本馬の成長がとても嬉しいです

4歳上の兄がオメガパフュームですし、生まれた時から大きくてしっかりとした馬体をしていたので、重賞を勝てるような馬になってくれるだろうと期待していました。私は、いい馬は何歳になっても走るという理念のもと、古馬になってからも活躍してくれる馬を作ること目標にしているので、6歳で重賞を勝ってくれた本馬の成長がとても嬉しいです。

Y.Maeda



今年3月に天へ旅立ったロージズインメイの産駒である本馬はデビューから一貫してダート戦に使われ、4歳時の秋に3勝クラスを卒業。昨年11月のカノプスSでオープン初勝利を挙げ、前走のBSN賞でもジャンスパーロプストの2着に追い込んだ。その半面、過去5回の重賞挑戦では4着1回、5着2回と「壁」を感じさせていたが、この日は持ち前の末脚が大爆発。東京大賞典を4連覇したオメガパフュームの半弟にあたる良血を開花させ、6歳の秋に嬉しい重賞初制覇を果たした。

### 父ロージズインメイUSA

北米、首13戦8勝(ドバイワールドC・首<sup>G1</sup>、ホイットニーH・米<sup>G1</sup>、ケンタッキークラシック・米<sup>G2</sup>、BCクラシック・米<sup>G1</sup>2着、ドンH・米<sup>G1</sup>2着)、06年から日本で供用、25年死亡  
 [(代表産駒)ドリームバレンチノ(JBCスプリントJ<sup>h</sup>I、東京盃J<sup>h</sup>II、シルクロードS<sup>Gm</sup>、函館スプリントS<sup>Gm</sup>)、コスモオゾラ(弥生賞<sup>Gm</sup>)、サミットトーン(浦和記念J<sup>h</sup>II、東京大賞典<sup>G1</sup>3着)、ウインムート(さきたま杯J<sup>h</sup>II)、ローズジュレップ(兵庫ジュニアグランプリJ<sup>h</sup>II)、ホウオウルーレット(本馬)、ローズプリンスダム(レパードS<sup>Gm</sup>)、マイネルバйка(白山大賞典J<sup>h</sup>III)、クレイジーアクセル(クイーン賞J<sup>h</sup>III)、ジェネラルグラント(全日本2歳優駿J<sup>h</sup>I2着)、マイネソルシエール(フローラS<sup>Gm</sup>2着)、コスモゾーンパーク(小倉大賞典<sup>Gm</sup>2着)、ゲッカコウ(フラワーC<sup>Gm</sup>2着)、コスモバビラ(マーメイドS<sup>Gm</sup>2着)、マイネショコラデ(函館2歳S<sup>Gm</sup>2着)、バンクオブクラウド(マーキュリーC<sup>Jh</sup>III2着)、コスモカナディアン(川崎記念J<sup>h</sup>I3着)

### 母オメガフレグランス

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央18戦3勝  
 (14 牡父ホワイトマズルGB)

オメガパフューム(15 牡父スウェプトオーヴァーボードUSA)中央13戦6勝(アンタレスS<sup>Gm</sup>、平安S<sup>Gm</sup>、シリウスS<sup>Gm</sup>、加古川特別、JBCクラシックJ<sup>h</sup>I2着、みやこS<sup>Gm</sup>3着、平安S<sup>Gm</sup>3着)、地方13戦5(東京大賞典<sup>G1</sup>4回、帝王賞J<sup>h</sup>I、JBCクラシックJ<sup>h</sup>I2着3回、帝王賞J<sup>h</sup>I2着、川崎記念J<sup>h</sup>I2着、ジャパンダートダービーJ<sup>h</sup>I2着、帝王賞J<sup>h</sup>I3着)、ダートグレード競走特別賞馬、NAR特別表彰馬、種牡馬

ブレーミングブーケ(16 牡父ワークフォースGB)中央4戦0勝、地方3戦2勝  
 エクストラノート(17 驥父アイルハヴアナザーUSA)中央40戦1勝、地方9戦3勝、障害1戦0勝 ㊞

ホウオウルーレット 本馬(19 牡父ロージズインメイUSA)中央25戦6勝(シリウスS<sup>Gm</sup>、カノプスS<sup>G</sup>、堺S、いわき特別、黒竹賞、BSN賞・L2着、スレイブニルS<sup>G</sup>2着) 獲得総賞金170,308,000円

ホウオウラムセス(21 牡父エビファニア)中央3戦0勝、地方7戦3勝 ㊞  
 ホウオウサンサール(22 牡父ブリックスアンドモルタルUSA)中央5戦0勝、地方1戦0勝

(24 牡父ベンバトルGB)

(25 牡父タイトルホルダー)

※18、20、23(不受胎)

## 良血を開花させ6歳秋の重賞初制覇

14頭の出走馬中、重賞勝ち馬はブライアンセンスのみというメンバー構成で争われたシリウスS。トップハンデ(58・5キ)を課された同馬は7番人気の評価にとどまり、3勝クラス特別とオープンの名古屋城Sを連勝中、ケンタッキーダービーで5着に健闘した実績も持つテーオーバースワードが、単勝2・0倍と断然の支持を集めた。平安Sの4、5着馬、ジンセイとタイトニットがこれに続いたものの、中心勢力と目された3頭は揃って敗れ、レースは大荒れの決着に。82万円超えの高配当(3連単)が飛び出した波乱劇の主役を演じたのは、8番人気の伏兵ホウオウルーレットだった。

手綱を押して先手を主張したホウオウプロサンゲが、出足に優った内枠の先行勢を抑えて主導権を奪取。ジンセイが4番手につけ、テーオーバースワードとタイトニットはその直後を進む。

一方、ホウオウルーレットの岩田康誠騎手は、2コーナーを最後方でターン。向正面に入ってから後方馬群のインで、じっくりと末脚を温存した。

逃げたホウオウプロサンゲは4コーナーで早々に失速。かわって先頭に立ったジュンアヲニヨシが背後のジンセイを直線半ばで突き放し、押し切り態勢を築く。しかし内々で脚を溜めて3、4コーナーを回り、直線に向いて加速にかかったホウオウルーレットは、

坂の上りから爆発的な末脚を発揮。ジュンアヲニヨシを一気に捉え、並んで伸びた内のサイモンザナドゥも抑えて大逆転のゴールに飛び込んだ。

今年3月に天へ旅立ったロージズインメイの産駒である本馬はデビューから一貫してダート戦に使われ、4歳時の秋に3勝クラスを卒業。昨年11月のカノプスSでオープン初勝利を挙げ、前走のBSN賞でもジャンスパーロプストの2着に追い込んだ。その半面、過去5回の重賞挑戦では4着1回、5着2回と「壁」を感じさせていたが、この日は持ち前の末脚が大爆発。東京大賞典を4連覇したオメガパフュームの半弟にあたる良血を開花させ、6歳の秋に嬉しい重賞初制覇を果たした。